

論文 / 著書情報
Article / Book Information

| | |
|-------------------|--|
| 題目(和文) | |
| Title(English) | Innovation in Korean B2B Mobile Services from the Technological and Service-oriented Perspectives |
| 著者(和文) | SeunghyeHong |
| Author(English) | Seunghye Hong |
| 出典(和文) | 学位:博士(技術経営), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9250号, 授与年月日:2013年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:宮崎 久美子 |
| Citation(English) | Degree:Doctor(Management of Technology), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9250号, Conferred date:2013/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:Kumiko Miyazaki |
| 学位種別(和文) | 博士論文 |
| Category(English) | Doctoral Thesis |
| 種別(和文) | 審査の要旨 |
| Type(English) | Exam Summary |

論文審査の要旨及び審査員

| 報告番号 | 甲第 号 | | 学位申請者氏名 | | Seunghye Hong | |
|-------------|------|-------|---------|-----|---------------|-------------|
| 論文審査 審査員 | | 氏名 | 職名 | | 氏名 | 職名 |
| | 主査 | 宮崎久美子 | 教授 | 審査員 | 田辺孝二 | 教授 |
| | 審査員 | 木嶋恭一 | 教授 | | 尾形わかは | 教授 |
| | | 高田潤一 | 教授 | | 三友仁志 | 早稲田大学 教授 |
| | | 寺野隆雄 | 教授 | | | |

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は「Innovation in Korean B2B Mobile Services from the Technological and Service-oriented Perspectives」(技術およびサービスの観点に基づいた韓国における B2B モバイルサービスのイノベーション)と題し、英文 9 章からなる。本論文の目的は 韓国の B2B モバイルサービスにおけるイノベーションのダイナミクスを解明し、新しい B2B サービスイノベーションモデルを構築することである。

第 1 章「Introduction」(はじめに)では、本論文の研究の背景、目的、構成について述べている。B2B モバイルサービス研究の重要性を指摘した後、本論文の目的を、モバイルサービスイノベーションに影響を及ぼす要因を分析するための有用な手法とフレームワークを開発するとともに、質的な情報を定量的データに変換する独自の分析法を提案することであるとしている。

第 2 章「Theoretical Background, Empirical Context and Methodology」(理論の枠組みと研究方法)では、サービスイノベーションに関する理論、サービスイノベーションモデル、モバイルサービスにおけるイノベーションに関する既存研究をレビューし、それを踏まえ本研究の理論枠組みを導出している。さらに、韓国のモバイルサービスを概観し、B2C から B2B へ市場が移行して来たことを明らかにしている。

第 3 章「Empirical Study on Innovation in Mobile Campus and Conceptual Framework」(モバイルキャンパスにおけるイノベーションに関する実証研究とフレームワーク)では、UNIST と POSTECH の 2 つの大学で実行しているモバイルキャンパスの実証研究を基礎に、サービス特性とイノベーションタイプの関係进行分析する研究フレームワークと研究課題を設定している。モバイルキャンパスとは大学において色々なモバイルソリューションをスマホで提供する B2B モバイルサービスである。

第 4 章「Dynamic Characteristics of B2B Mobile Services and Their Users」(B2B モバイルサービスとユーザのダイナミック特性)では、242 例の B2B モバイルサービスのデータからサービスイノベーションの指標を導出し、これに対し統計分析を行うことで、B2B モバイルサービスを 7 つのグループに分類している。

第 5 章「Drivers of Innovation in the Korean B2B Mobile Services」(韓国のモバイルサービスにおけるイノベーションのドライバー)では、2009-2010 年の B2C から B2B への変化がモバイルサービスイノベーションにどのような影響を及ぼしたかについて論じ、いかにイノベーションダイナミクスが進化し、どのような要因がモバイルサービスイノベーションに影響を及ぼしたかを解明している。

第 6 章「Technological Innovations in B2B Mobile Services」(B2B モバイルサービスにおける技術的イノベーション)では、技術的観点から B2B モバイルサービスイノベーションを分析し、どのようなイノベーションタイプが存在し、それらはどのような違いがあるかを検討している。それにより、2009-2010 年以後の新規のサービス特性の源泉となった radical innovation、改善されたサービス特性をもたらす incremental innovation、それらの中間である semi-radical innovation の 3 種類のイノベーションを明らかにしている。

第 7 章「Service-oriented Innovations in B2B Mobile Services」(B2B モバイルサービスにおけるサービスの観点からのイノベーション)では、モバイルキャリアと B2B モバイルサービス利用者のダイナミックなコンペティションとイノベーションの相互作用について分析している。それにより、二つ以上の既存サービス製品が結合して生じる recombinative innovation、特定産業に携わる B2B サービス利用者に特化されたサービスを提供する customized innovation、新規モバイルサービス開発への利用者の活発な参加が引き起こす co-produced innovation の 3 つのタイプを明らかにしている。

第8章「The Integrated Perspective on Innovation in B2B Mobile Services and the Revised Framework」(B2B モバイルサービスイノベーションに関する統合された観点と新たなフレームワーク)では、テクノロジーとサービスの2つの観点を合わせて統合的に B2B モバイルサービスイノベーションを再解釈した上で、新たな枠組みを提示してこれまで議論した6種類のイノベーションタイプを関係づけ、全体の議論を総括している。

第9章「Conclusions and Implications」(結論と考察)では、研究結果の結論を述べ、そこからの含意について検討している。

以上これを要するに、本論文は、B2B サービスイノベーションを分析するフレームワークを提示し、B2B サービスに対するイノベーションモデルを構築して、サービスイノベーションの理論的進展に大きく貢献している。さらに、モバイルキャリアと B2B モバイルサービス利用者の活発な協働が革新的サービスの創出に果たす役割を実証的に解明し、技術経営の研究や産業界の発展に貢献するところが大である。よって、本論文は博士(技術経営)の学位論文として十分な価値を有するものと認める。